



# Megaptera

発行；小笠原ホエールウォッチング協会 (OWA) 東京都小笠原村父島字西町 04998-2-3215  
04998-2-3500 (FAX) メガプテラ=ギリシャ語で「大きなヒレ」

## セミクジラ現わる!!



魚岩付近を遊泳するセミクジラ  
一九九三年四月十二日

撮影者…佐藤文彦

### 小笠原海洋センター 佐藤文彦

小笠原海洋センターでは毎年十二月から五月にかけて小笠原諸島沿岸に來遊するザトウクジラの調査を行っています。本年度はこの期間中四月十二日と十五日に父島列島の沿岸でセミクジラを観察する機会に恵まれました。セミクジラは過去の乱獲により個体数が激減したために、一九三七年からは主要捕鯨国であったイギリス、ノルウェー、ドイツ、アメリカなどの国々においては国際捕鯨協定により捕獲禁止となりました(この時点では日本は条約を批准しておらず、今世紀半ばころまで捕獲をしていました)。しかしながら、北太平洋ではいまだに個体数の回復は認められておらず、近年でも観察記録の非常に少ない種となっています。国際捕鯨委員会(IWC)の推定によると、本種の生息数は一九六五年から一九七一年にかけて行われた目視調査の結果から北太平洋全体で一〇〇頭から二〇〇頭と推定されています。日本近海に生息するセミクジラの回遊や分布に関するいくつかの知見は、過去の捕獲データから見る事ができます。本種は十七世紀から十九世紀末にかけては和歌山県や高知県などの太平洋側沿岸と、長崎県や山口県などの日本海側沿岸を中心として主に日本特有の網取式捕鯨によって捕獲されていました。二十世紀には砲を用いた近代捕鯨によって千島列島の周辺や本州から四国、九州の沿岸で少数ながら捕獲されてきました。また、アメリカやイギリスは十九世紀にはアメリカ式捕鯨によって夏季に北極海やオホーツク海でも捕獲していました。これらの捕獲

データを詳しく見てみると、これら日本列島の沿岸域を通過するセミクジラには冬季には南向きの、そして春季には北向きの遊泳方向が観察されており、この結果日本列島の太平洋側沿岸を北上するセミクジラは千島列島周辺やベーリング海で、日本海側沿岸を北上するセミクジラはオホーツク海で夏季の索餌期を過ごしていることが分かっています。一方、冬季に南方で捕獲されたセミクジラの記録を見ると、小笠原諸島近海において一九三三年〜一九四三年の間に八頭の捕獲記録があるほか、台湾海峡や東シナ海において捕獲されている記録があり、これらのデータから日本列島沿岸を冬季に南下する個体は、おそらく小笠原諸島沿岸や琉球列島周辺、さらに南方の海域へと回遊して交尾や出産、子育てなどの繁殖行動をしていると推測されています。しかしながら、今のところこの繁殖海域は特定されていません。

小笠原諸島沿岸における最近の観察記録は三年前の一九九〇年四月八日とまだ新しく、皆さんも記憶に残っているかと思いますが(本紙第二号に掲載)。この時は毎年この時期にザトウクジラの撮影のために來島するプロカメラマンの望月昭伸氏と小笠原ダイビングセンターのスタッフらが父島列島の西側沿岸を北上する一頭のセミクジラを発見し、フィルムに収めることに成功しました。望月氏はこのセミクジラの体長を約八〜九mと推定しています。また同年の五月に小笠原に來島したロジャー・ペイン博士(ザトウクジラの研究で著名)も、撮影されたフィルムからまだ若い個体であろうと推測しています。このセミクジラには北上